

2025 年度事業報告

概要報告

2025 年度、全国協議会は設立 35 周年を迎えました。あいち骨髓バンクを支援する会に主管を担っていただいた設立 35 周年記念大会は 6 年振りの地方での開催となり、5 年振りに改訂発行した病初期の患者さんのためのハンドブック「白血病と言われたら」第 7 版の完成発表もおこないました。

ドナー登録者の累計数が 2025 年 5 月 22 日に 100 万人に到達、また、10 月 31 日には日本骨髓バンクを介した移植累計症例数が 3 万例に到達しました。ドナー登録者・提供者、医療関係者、造血幹細胞移植事業関係者、ボランティアの皆様の 35 年に及ぶ活動の賜物と感謝申し上げます。

基金設立 30 周年を迎えた佐藤さち子記念造血細胞移植患者支援基金はこれまで 30 年間に 450 人以上の患者を支援し、助成累計額は 1 億円を超えました。ご支援をいただいた皆様に感謝申し上げます。

2010 年 4 月に国税庁から認定 NPO 法人として認定、その後、東京都に移管され 2025 年 3 月には 3 回目の認定が更新されました。今後も認定 NPO として法令に則り活動を進めてまいります。

2025 年度は、皆様のご支援のもと、多数の活動をおこなってまいりました。
以下に事業別に報告いたします。

事業別報告

1. ドナー登録推進と普及啓発活動

(1) オンラインでのスワブ申し込みの試験的導入への協力

2024 年度にトライアルが始まったオンラインドナー登録は、本格導入用システムを用いたトライアル 3 が 2026 年 1 月 20 日から開始され、全国協議会ニュースへの掲載、イベントでのチラシ配布など、広報に協力しました。全国のボランティアは登録会での登録推進にあたっています。

(2) コミュニケーションの強化

・ブロックセミナーの開催

全国各地域での活動を促進するため、2025 年度も地元団体（担当理事）が主管団体としてブロックセミナーを開催しました。加盟、非加盟を問わず、多くの骨髓バンクボランティア団体、また、行政や血液センターの参加を得ました。

開催期間		シンポジウム・セミナー	主管・協力等団体
2025年	11 月 15 日	北海道ブロックセミナー (9 団体 21 人参加)	北海道骨髓バンク推進協会
	12 月 13 日	中国・四国地区ブロックセミナー (7 団体 19 人参加)	(中国・四国地区担当理事)
2026年	2 月 14 日	東海北陸地区ブロックセミナー (9 団体 29 人)	(東海北陸地区担当理事)

	4月11日	関東甲信越地区ブロックセミナー (4団体 36人参加)	千葉骨髓バンク推進連絡会
--	-------	--------------------------------	--------------

(3) ドナー登録推進と普及啓発活動

1) 主催・共催、協力、名義後援などによる普及啓発

・主催事業 計1件

2025年度は、設立35周年記念大会として、あいち骨髓バンクを支援する会に主管を担っていただき、名古屋市立大学医学部桜山キャンパス病棟・中央診療棟3階ホールで開催しました。記念式典では、長く支援いただいている企業団体に感謝状の贈呈、「白血病と言われたら」第7版の改訂発行を発表しました。

第2部では「患者・患児を取り巻く環境の把握と今後のボランティア活動における協働について」と題し、異種の支援団体の活動紹介をいただき、患者・患児や患者家族を取り巻く環境をさまざまな立場からの視点・考え方を知り、交流を図っていくことで、当事者が必要としていることをより深く知ることができることを学びました。

開催期間		内 容	参加人数	開催場所
2025年	5月25日	設立35周年 2025 全国骨髓バンクボランティアの集い in 名古屋	150人	名古屋市立大学医学部桜山キャンパス 病棟・中央診療棟3階ホール

・事業共催 計9件

2023年度から全国のボランティア団体と全国協議会の連携が強化されました。

各地団体と全国協議会が連携・協力して患者支援活動、骨髓バンク事業啓発活動をおこなう事業共催制度も導入4年目を迎えました。

今後も加盟、非加盟を問わず、全国の団体と連携して、実務的な患者支援活動、骨髓バンク事業啓発活動を積極的に展開していきます。

開催期間		事 業 名	開催場所	主 催
2025年	5月17日	骨髓バンクチャリティーコンサート 円覚寺ピアノ三重奏の夕べ	神奈川県鎌倉市	神奈川骨髓移植を考える会
	8月17日	骨髓バンク支援「命をつなぐ」コンサート	鹿児島県鹿児島市	かごしま骨髓バンク推進連絡会議
	9月14日	骨髓バンク支援「命をつなぐ」コンサート	鹿児島県鹿児島市	かごしま骨髓バンク推進連絡会議
	9月12日～15日	あやちゃんの贈り物展	鹿児島県鹿児島市	かごしま骨髓バンク推進連絡会議
	11月23日	ピアノ三重奏チャリティーコンサート 2025 響	東京都文京区	骨髓バンクを支援する東京の会
	11月24日	骨髓バンクチャリティー「コンサートと落語会」	千葉県成田市	千葉骨髓バンク推進連絡会
	11月29日	第32回骨髓バンクチャリティーコンサート	埼玉県浦和区	埼玉骨髓バンク推進連絡会
	12月14日	骨髓バンク支援クリスマスコンサート 2025	兵庫県姫路市	姫路地区骨髓バンク推進センター
2026年	3月13日	田島高宏・田島ゆみ春待ちコンサート ～骨髓バンクチャリティー～	北海道札幌市	北海道骨髓バンク推進協会

・名義共催 計 1 件

開催期間		事業名	開催場所	主催
2025 年	11 月 16 日	第 31 回県民公開講座「骨髄移植を 知ろう」	青森県 十和田市	県民公開講座骨髄移植を知ろう 実行委員会

・協力事業 計 2 件

グリーンリボンランニングフェスティバルは近隣ボランティアの皆様の協力を
得て、タスキをかけての出走、ブース内での啓発に取り組みました。

AYA week 2026 は広報の協力に加え、3 カ所の大交流会では患者支援基金チラシ
を配布、参加団体のキックオフミーティングでは口頭と動画で患者支援活動内容
の紹介をおこないました。

開催期間		事業名	開催場所	主催
2025 年	10 月 13 日	2025 グリーンリボンランニングフェ スティバル	東京都 世田谷区	NPO 法人日本移植者協議会ほか
2026 年	3 月 7 日 ～3 月 15 日	AYA week 2026	全国各地	一般社団法人 AYA がんの医療と 支援のあり方研究会 「AYA week 2026」実行委員会

・名義後援事業 計 8 件

2 日にわたり行われた SNOWBANK では悪天候ということもあり、献血 357 人、
ドナー登録 49 人という成果となりました。毎年参加している全国協議会も、ボラ
ンティアの皆様による登録会における説明員活動、ブースの設営で参加しました。

プルデンシャル生命が行う動画コンテストでは後援のほか、審査や贈呈式にも
参加予定です。

開催期間		事業名	開催場所	主催
2025 年	5 月 17 日	山本雅也「ハルカ ライブ」	東京都 港区	株式会社タフゴング
	8 月 24 日	骨髄バンクチャリティ麻雀大会 2025in 東京	東京都 港区	骨髄バンクチャリティ麻雀大会 実行委員会
	8 月 31 日	山本雅也バースデーライブ	東京都 練馬区	株式会社タフゴング
	11 月 1 日 ～11 月 3 日	踊ルバル	東京都 新宿区	北村羽菜、小石川茉莉愛
	11 月 8 日 ～11 月 9 日	東京雪祭 SNOW BANK PAY IT FORWARD 2025	東京都 渋谷区	一般社団法人 SNOWBANK
	12 月 1 日～ 2026 年 6 月 30 日	若年層の骨髄ドナー登録を促進する 動画コンテスト	全国各地	プルデンシャル生命保険株式会社
2026 年	3 月 1 日	第 48 回日本造血・免疫細胞療法学 会総会 特別公開講座	東京都 千代田区	第 48 回日本造血・免疫細胞療法 学会総会

	3 月～	映画『小春日和～Indian Summer～』	全国各地	小春日和プロジェクト
--	------	-------------------------	------	------------

2) 東京マラソン関連・箱根駅伝沿道応援等イベントでの取り組み

全国協議会は東京マラソン財団チャリティ RUN with HEART の寄付先団体になっており、今年度は東京レガシーハーフマラソン 2025 チャリティ（2025 年 10 月 19 日）と東京マラソン 2026 チャリティ（2026 年 3 月 1 日）に寄付先団体として参加しました。

全国協議会のチャリティランナーはレガシーハーフでは 8 人、東京マラソンでは 52 人となり、寄付金総額も 1,133 万円に達しました。東京マラソンではビブスを受け取るための EXPO が大会前の 3 日間、東京ビッグサイトで開催されブースを出展しました。そこではランナー以外にもドナーを卒業した方や登録について質問する方など大勢お見えになり良い啓発の場となっています。全国協議会のチャリティランナーは医療関係者や患者、患者家族、ドナー経験者など患者支援に強い思いを持っています。来年度もチャリティランナーを集め啓発をおこなう予定です。

7 月 5 日（土）に西武園ゆうえんちで開催されたチームケンズカップアクアスロン大会にブースを設営し啓発を行いました。表彰式の際にはアピールの時間をいただき、参加していた小中学生やその家族に関心を持っていただくことができました。

箱根駅伝沿道応援では、全国協議会関係者だけではなく、今年もプルデンシャル生命保険株式会社の社員の方々、その家族の方々が大量参加してくださいました。プルデンシャル生命保険株式会社からの寄付は全て佐藤きち子基金に充当させていただきます。

また、11 月 22 日・23 日に G メッセ群馬で開催された「GFEST. (ジーフェス)」で、齊藤樺嗟斗さん（白血病で移植も受けたがお亡くなり。医大生で医療について SNS で発信をしていた）の隣でブースを出展、群馬の会と埼玉の会からボランティアに参加し啓発をおこないました。

AC 動画を提供いただくなど日本骨髄バンクからも支援いただきました。

3) 啓発グッズの作成・頒布

今年度は新色のクリアファイル作成に留まりましたが、2026 年度に向けてハローキティを活用した新しい啓発グッズ作成のプロジェクトを開始しています。

啓発の現場で配布しやすい、骨髄バンクに関心を持ってもらえるグッズの開発を進めていきます。

グッズ名	頒布先・頒布数		作成数・作成時期	
ハローキティポケットティッシュ	加盟団体へ 地方自治体など	38,450個 44,500個	100,000個	2025年3月
ハローキティクリアファイル	加盟団体へ 地方自治体など	1,070枚 1,060枚	4,000枚	2024年3月
ハローキティ横断幕	加盟団体へ 地方自治体など	3枚 0枚	—	—
ハローキティのぼり	加盟団体へ 地方自治体など	0枚 13枚	—	—
ハローキティうちわ	加盟団体へ 地方自治体など	46枚 230枚	5,000枚	2019年7月
今治のミニハンカチ	加盟団体へ 地方自治体など	807枚 304枚	6,156枚	2023年3月

4) 展示会への協力

2024 年度に引き続き、2025 年度も多数のパネル展が開催されました。
一部の加盟団体では独自のパネルを作成するなど精力的に開催いただきました。
「体験談等活用ガイドライン」にのっとり、ペアの特定につながることもないよう個人情報に配慮をした上で、「患者とドナーのメッセージ展」として現在の心境を伝えるメッセージの展示も始めています。

骨髄バンク事業の啓発に非常に有効なイベントのため、これからも全国の仲間とともに活動を強化していきます。

MAMO のメッセージ展 計 4 カ所 (1997 年 6 月から事業開始 累計開催数 183 回)

開催期間		開催場所		主 催
2025年	9 月 14 日 ～9 月 20 日	岩手県 盛岡市	盛岡市肴町商店街／岩手県公会堂 (患者とドナーのメッセージ展 同時開催)	日本骨髄バンク岩手県地区普及広 報委員
	10 月 1 日 ～10 月 31 日	大阪府 豊中市	豊中市役所ロビー (いのちの輝き展同時開催)	認定 NPO 法人つながるいのち
	10 月 1 日 ～10 月 31 日	香川県 坂出市	海ホテル	かがわ・骨髄バンクを応援する会
	11 月 1 日 ～11 月 9 日	宮城県 石巻市	イオンモール石巻	石巻骨髄バンクの会

いのちの輝き展 計 21 カ所 (2006 年 6 月から事業開始 累計開催数 206 回)

開催期間		開催場所		主 催
2025年	4 月 8 日 ～4 月 22 日	千葉県 富津市	富津市立図書館 (わたしががんばったよ同時開催)	千葉骨髄バンク推進連絡会
	4 月 29 日 ～5 月 25 日	千葉県 富里市	富里市立図書館 (わたしががんばったよ同時開催)	千葉骨髄バンク推進連絡会
	5 月 31 日 ～6 月 8 日	宮城県 石巻市	イオンモール石巻	石巻骨髄バンクの会
	7 月 8 日 ～7 月 28 日	千葉県 茂原市	茂原市立図書館 (わたしががんばったよ同時開催)	千葉骨髄バンク推進連絡会
	8 月 1 日～ 開催中	山形県 山形市	山形大学附属病院 Yume ギャラ リー	骨髄バンクを支援するやまがたの会
	8 月 6 日 ～8 月 17 日	千葉県 佐倉市	佐倉市立南図書館 (わたしががんばったよ同時開催)	千葉骨髄バンク推進連絡会
	8 月 19 日 ～8 月 31 日	千葉県 佐倉市	佐倉市立佐倉図書館 (わたしががんばったよ同時開催)	千葉骨髄バンク推進連絡会
	9 月 2 日 ～9 月 12 日	千葉県 佐倉市	佐倉市役所ホール	千葉骨髄バンク推進連絡会
	10 月 1 日 ～10 月 31 日	大阪府 豊中市	豊中市役所ロビー (わたしががんばったよ同時開催)	認定 NPO 法人つながるいのち
	10 月 6 日 ～10 月 17 日	千葉県 千葉市	千葉県庁本庁舎～中庁舎連絡通路 (あやちゃんの贈り物展、わたしが がんばったよ同時開催)	千葉骨髄バンク推進連絡会
	10 月 8 日 ～10 月 10 日	北海道 札幌市	北海道庁本館 1 階ロビー特設 展示場	北海道骨髄バンク推進協会

2025年	10月9日 ～10月16日	山形県 山形市	山形県庁ロビー	山形県健康福祉部医療政策課
	10月17日 ～10月30日	山形県 山形市	きらやか銀行本店	山形県健康福祉部医療政策課
	10月20日 ～10月31日	千葉県 船橋市	イオンモール船橋店 1階オー プンスペース (わたしががんばったよ同時開催)	千葉骨髄バンク推進連絡会
	11月5日 ～11月28日	山形県 米沢市	山形県立米沢栄養大学	山形県健康福祉部医療政策課
	11月5日 ～11月13日	千葉県 香取市	みんなの賑わい交流拠点コン パス 1階展示スペース (わたしががんばったよ同時開催)	千葉骨髄バンク推進連絡会
	12月2日 ～12月16日	千葉県 八街市	八街市立図書館ホール (わたしががんばったよ同時開催)	千葉骨髄バンク推進連絡会
	12月3日 ～12月22日	滋賀県 甲賀市	甲賀市役所すこやか支援課前	滋賀骨髄献血の和を広げる会
	12月17日 ～12月28日	千葉県 市原市	市原市中央立図書館第1フロ ア中央通路 (わたしががんばったよ同時開催)	千葉骨髄バンク推進連絡会
2026年	3月1日	東京都 千代田区	東京国際フォーラム G棟 608 (東京マラソンラウンジ)	全国骨髄バンク推進連絡協議会
	3月13日	北海道 札幌市	札幌コンサートホール Kitara	北海道骨髄バンク推進協会

あやちゃんの贈り物展 計3カ所 (1994年7月から事業開始 累計開催数 292回)

開催期間		開催場所		主 催
2025年	9月12日 ～9月15日	鹿子島県 鹿児島市	天文館図書館ギャラリー	かごしま骨髄バンク推進連絡会議
	10月6日 ～10月17日	千葉県 千葉市	千葉県庁本庁舎～中庁舎連絡通路 (いのちの輝き展、わたしががんば ったよ同時開催)	千葉骨髄バンク推進連絡会
	10月10日 ～10月28日	滋賀県 蒲生郡	日野町図書館	滋賀骨髄献血の和を広げる会

患者とドナーのメッセージ展 計2カ所 (2004年9月から事業開始 累計開催数 65回)

開催期間		開催場所		主 催
2025年	9月14日 ～9月20日	岩手県 盛岡市	盛岡市肴町商店街／岩手県公会堂 (MAMOのメッセージ展同時開催)	日本骨髄バンク 岩手県地区普及 広報委員
	10月1日 ～10月30日	兵庫県 姫路市	姫路市役所／みゆき献血ルーム ／姫路市医師会看護専門学校	姫路地区骨髄バンク推進センター

わたしががんばったよ展 計10カ所 (2012年11月から事業開始 累計開催数 76回)

開催期間		開催場所		主 催
2025年	4月8日 ～4月22日	千葉県 富津市	富津市立図書館 (いのちの輝き展同時開催)	千葉骨髄バンク推進連絡会
	4月29日 ～5月25日	千葉県 富里市	富里市立図書館 (いのちの輝き展同時開催)	千葉骨髄バンク推進連絡会
	7月8日 ～7月28日	千葉県 茂原市	茂原市立図書館 (いのちの輝き展同時開催)	千葉骨髄バンク推進連絡会

2025年	8月6日 ～8月17日	千葉県 佐倉市	佐倉市立南図書館 (いのちの輝き展同時開催)	千葉骨髓バンク推進連絡会
	8月19日 ～8月31日	千葉県 佐倉市	佐倉市立佐倉図書館 (いのちの輝き展同時開催)	千葉骨髓バンク推進連絡会
	10月6日 ～10月17日	千葉県 千葉市	千葉県庁本庁舎～中庁舎連絡通路 (いのちの輝き展、あやちゃんの贈り物展同時開催)	千葉骨髓バンク推進連絡会
	10月20日 ～10月31日	千葉県 船橋市	イオンモール船橋店1階オープンスペース (いのちの輝き展同時開催)	千葉骨髓バンク推進連絡会
	11月5日 ～11月13日	千葉県 香取市	みんなの賑わい交流拠点コンパス1階展示スペース (いのちの輝き展同時開催)	千葉骨髓バンク推進連絡会
	12月2日 ～12月16日	千葉県 八街市	八街市立図書館ホール (いのちの輝き展同時開催)	千葉骨髓バンク推進連絡会
	12月17日 ～12月28日	千葉県 市原市	市原市中央立図書館第1フロア中央通路 (いのちの輝き展同時開催)	千葉骨髓バンク推進連絡会

2. 患者・家族の支援活動

(1) 患者の救命とQOLの向上、移植後長期生存患者の心に寄り添う活動

最適な時期に移植が受けられるよう、ドナーが提供しやすい環境整備のためのドナー休暇（公欠）制度導入のための調査に着手しました。移植患者の負担軽減を考えるプロジェクトを立ち上げ、ドナー室料・造血幹細胞運搬費・移植後のワクチン接種など大きな負担となっている項目をあぶり出し、軽減への道筋の検討を始めました。

就労に悩む患者の相談窓口開設の準備を進めました。

(2) 白血病フリーダイヤル

「白血病フリーダイヤル」の、2025年度の開設回数は24回、受付相談件数は107件（前年度136件）でした。2024年度末に相談内容のデータ化に取り組みましたが、今後システムの見直しなどを進めて本格導入を目指します。

白血病フリーダイヤル（患者・家族相談受付）（累計1,342回、9,426件）

開設回数 24回（第2、第4土曜日）

受付相談件数 107件（前年度136件）

相談員数 延べ96人（うち医師 延べ24人）

(3) 患者支援基金

1) 移植患者への経済的支援「佐藤さち子記念造血細胞移植患者支援基金」

1995年9月に助成申請受付を開始した佐藤さち子基金は、今年設立30周年を迎えました。この30年間に約450人の患者さんを支援し、助成金額の累計は2025年1月に1億円を突破しました。今年度は申請、助成額とも急増しています。これは収入要件の緩和をおこなったため、「白血病と言われたら」をHCTC（造血細胞移植コーディネーター）に配付した効果、また、諸物価高騰のためなどの要因が考えられます。今年度は70歳を超える患者の申請が2件あり、2021年度以降増加の傾向にあります。

当基金では助成対象としていますが、ドナー室料が移植患者家族の大きな負担になっていることについて骨髓・さい帯血バンク・献血推進議員連盟に取り上げていただき厚生労働大臣への決議文に反映されました。

問い合わせ件数	113 件（前年度 66 件）
申請件数	38 件（前年度 23 件）
助成件数	32 件（前年度 22 件）
助成総額	6,502,345 円（前年度 3,832,052 円）
（累計 助成件数 416 件、助成総額 106,657,862 円）	

2) 分子標的薬と精子保存への経済的支援「志村大輔基金」

2024 年度末にかけて、「高額療養費自己負担額の引き上げ」が議論され、引き上げは一応の見送となりましたが、議論が復活してきています。そのような社会情勢の中、志村大輔基金の必要性がより高まってきています。

また、60 歳以上の申請者が増加しており、物価高の影響が大きいと考えられます。

問い合わせ件数	分子標的薬 86 件（前年度 100 件）、精子保存 6 件（前年度 13 件）
申請件数	分子標的薬 133 件（前年度 108 件）、精子保存 5 件（前年度 6 件）
助成件数	分子標的薬 126 件（前年度 113 件）、精子保存 6 件（前年度 5 件）
助成総額	分子標的薬 6,094,000 円（前年度 5,720,000 円） 精子保存 100,760 円（前年度 118,825 円）

（累計 分子標的薬 助成件数 959 件、助成総額 48,792,000 円、
精子保存 助成件数 116 件、助成総額 3,924,043 円）

3) 未受精卵子保存・生殖補助医療への経済的支援「こうのとりマリー基金」

妊孕性温存について、公的な助成が始まってから、こうのとりマリー基金への助成申請件数は激減しました。公的な助成により患者が救われることは喜ばしいことですが、患者の負担全てが賄われるものではありません。不足分をこうのとりマリー基金に申請できること、本基金で未受精卵子を採取・保存した患者さんを対象に、不妊治療の費用も支援することをもっとアピールが必要です。

また、2026 年 3 月に開催された AYWeek2026 では全国 3 カ所の会場で基金のチラシを配布し、こうのとりマリー基金をはじめ患者助成基金の周知に努めました。

問い合わせ件数	17 件（前年度 7 件）
申請件数 卵子保存	5 件（前年度 0 件）
助成件数 卵子保存	4 件（前年度 1 件）
助成総額 卵子保存	521,827 円（前年度 200,000 円）

（累計 卵子保存 助成件数 43 件、助成総額 7,109,921 円
体外受精 助成件数 2 件、助成総額 552,680 円）

（4）学会・医療講演会・患者相談会

第 48 回日本造血・免疫細胞療学会総会の特別公開講座「血液内科・生殖医療・患者がつくる連携のかたち～もし、妊孕性温存のことを聞かれたら、あなたならどう答えますか？～」を名義後援し、大谷副会長がファシリテーターとして登壇し、理事が視聴しました。

（5）ハンドブック「白血病と言われたら」の頒布活動

「設立 35 周年 2025 全国骨髓バンクボランティアの集い in 名古屋（2025 年 5 月 24 日開催）」で第 7 版改訂発行の発表をおこないました。今回も約 50 人の血液内科の先生方をはじめとした各分野の専門家が患者のために協力してくれています。

第 7 版では最新の医療情報を掲載するとともに、患者とその家族、ドナーとその家

族の寄稿が更に充実したのが特徴です。

全国約 200 人の HCTC を通じて、認定診療科、医療相談室に提供しました。また、マスコミでの報道もあり、ダウンロードの回数も増加しましたが、本誌の申込が急増し、紙媒体の需要が再確認されました。

インターネット上では得られない正確な医療情報や治療に立ち向かうための情報が求められていることを改めて確認しました。

	＜第 6 版＞2025 年度出荷状況	＜第 7 版＞2025 年度出荷状況
有料頒布数	上巻／ 2 部 下巻／ 2 部	上巻／273 部 下巻／280 部
啓発用頒布数	上巻／147 部 下巻／146 部	上巻／1,507 部 下巻／1,506 部
ダウンロード数	214 件 （累計 8,187 件）	3,004 件

3. ドナー支援活動

（1）「ドナー休暇制度」「ドナー助成制度」のさらなる普及

骨髄・さい帯血バンク・献血推進議員連盟が開催したヒアリング会で「ドナー休暇制度早期導入のためのインセンティブの検討」を訴えました。

それを受け、12 月 15 日に開催された骨髄・さい帯血バンク・献血推進議員連盟総会では、ドナー休暇制度の必要性について提言し、「骨髄バンクおよび臍帯血バンクの支援等に関する決議」の中に反映されました。

ドナー助成制度 39 都道府県、1,112 市区町村

ドナー公欠制度 21 校

ドナー休暇制度 933 企業・団体

（2026 年 3 月末現在 日本骨髄バンク調べ）

（2）「ドナーサポートダイヤル」活動の継続

全国協議会の「ドナーサポートダイヤル」による相談件数は、減少傾向にあります。相談内容としては、血縁者からの提供依頼、HLA 検査の受け方、ドナー助成金、提供にあたって職場対応の不満、登録・提供にあたっての既往症の問い合わせなどです。必要に応じて日本骨髄バンクに連携しました。

受付相談件数 16 件（前年度 12 件）

（累計 1,556 件）

4. 骨髄バンク及び医療制度の充実

（1）要望・請願活動

ドナー提供をしやすい環境整備のためのドナー休暇（公欠）制度導入や移植患者の大きな負担であるドナー室料・造血幹細胞運搬費の負担軽減について取り組みました。骨髄・さい帯血バンク・献血推進議員連盟が開催したヒアリング会では「移植患者の健保適用外の経済負担をカバーする制度の検討」「ドナー休暇制度早期導入のためのインセンティブの検討」を訴えました。12 月 15 日の骨髄・さい帯血バンク・献血推進議員連盟総会ではドナー休暇制度の必要性とドナー室料の無料化について提言し、その 2 点は「骨髄バンクおよび臍帯血バンクの支援等に関する決議」の中に反映され、厚生労働大臣に提出されました。今後の進捗を注視していきます。

(2) 調査・研究・セミナー事業、国際交流

・日本造血・免疫細胞療法学会総会への参加

2026年2月27日(木)～3月1日(日)の3日間、東京国際フォーラム(千代田区)で第48回日本造血・免疫細胞療法学会総会(学会長:福田隆浩 国立がん研究センター中央病院 造血幹細胞移植科 科長)が開催され、全国協議会からは、梅田理事長のほか、理事が4人参加しました。今回の学会では、全国協議会としてのポスター発表、口演はありませんでしたが、来年の同学会での演題への取り組みのため、最新情報の収集に努めました。

また、例年出している全国協議会ブースでは、白血病フリーダイヤル、3つの患者支援基金など患者支援活動の紹介をおこないました。

また、特別公開講座として「血液内科・生殖医療・患者がつくる連携のかたち～もし、妊孕性温存のことを聞かれたら、あなたならどう答えますか?～」を全国協議会が後援、大谷副会長がファシリテーターとして参加し、主に血液内科医を対象とした特別公開講座は立ち見が出るほど関心が高いテーマでした。

・「骨髄バンク支援事業」調査実施計画の策定

骨髄バンクへのドナー登録を拡大するうえで、障害となっている理由を正確に把握するため、献血ルームにおいてドナー登録の説明をするもドナー登録を見送った方を対象として、骨髄バンク登録説明員が現場でアンケート調査を2026年4月～2027年3月までの期間で日本赤十字社の協力を得て実施予定です。この調査は厚生労働省や日本骨髄バンクからも支持されています。

・国際協力

アジア太平洋地区新興国の若手医療従事者へ学会や研修のために、APBMT(アジア太平洋造血細胞移植学会)に対し、保有しているデルタ航空のマイレージを提供しています。2025年度は申請がありませんでした。

ほか、モンゴルで6月26日～27日に開催された第9回WBMT(世界造血細胞移植ネットワーク)/WHOによる新興国のためのワークショップ/シンポジウムへの米国医師1人の派遣にあたりマイレージを提供しました。

5. 全国協議会の体制強化、財政改善の活動

(1) 運動ネットワークの強化・会議体

2025年度も理事長、副理事長、各理事が各地との連携に取り組みました。各ブロックのブロックセミナーには時間の許す限り、地区担当理事だけではなく、理事長、副理事長が現地参加し、積極的に情報交換、意見交換をしました。

公益財団法人日本骨髄バンクの岡本真一郎理事長と全国協議会梅田正造理事長とは会合の場を設け連携を確認しました。また、同財団の広報渉外部長と日常的に意見交換を行い、資材提供の協力を受けるなど、実務レベルで諸課題の解決に取り組んでいます。

日本赤十字社とは、血液事業本部技術部、造血幹細胞事業管理課の方々を訪ね、「骨髄バンク支援事業」調査実施についての協力依頼など連携を図りました。

・役員、委員の派遣

厚生労働省造血幹細胞移植推進拠点病院事業・評価会議委員(梅田正造理事長)

日本骨髄バンク評議員(大谷貴子副会長、梅田正造理事長)

日本骨髄バンクアドバイザーボードメンバー(菅早苗理事)

日本赤十字社造血幹細胞事業検討委員(梅田正造理事長)

・日本骨髄バンク 評議員会への出席、理事会・業務執行会議等については、傍聴はかなわず資料取り寄せのみとなりました。

- ・日本骨髄バンク 全国都道府県担当者会議の傍聴（Web）
2025 年 8 月 5 日
- ・日本赤十字社 造血幹細胞事業広報作業部会への参加
オブザーバー参加 3 回
一般の方、特に若年層へ造血幹細胞移植の理解を広めるための広報誌「BANK!BANK!」編集作業会議での助言を行い、また、加盟団体を通して配付した広報誌の使用状況や反応、評判について集約し意見を述べました。
- ・日本赤十字社 全国骨髄ドナー登録担当者研修会の傍聴
2025 年 11 月 13 日

（２）全国協議会の組織強化・財政改善活動

- ・組織強化のため常勤役員配置の検討に入りました。しかし、2025 年度末の事務局は常勤職員 2 人体制であり、早期に新体制を構築することが課題となっています。
- ・未加盟団体も各地ブロックセミナーに参加、交流を図り加盟の呼びかけをおこないました。
- ・2023 年度末に佐藤さち子記念造血細胞移植患者支援基金（特定資産）を 17,000 千円積み立てました。同基金による患者支援のために特定資産から 2024 年度に 8,000 千円、2025 年度は第 188 回理事会（2025 年 3 月 16 日開催）の議決により 5,000 千円を、残りの 4,009,430 円の取り崩しが第 192 回理事会（2025 年 11 月 16 日）で議決され取り崩し、佐藤さち子記念造血細胞移植患者支援基金事業費支払口座に移動しました。事業費支払口座の 2025 年度末残高は 2,425,013 円で、さち子基金患者支援事業費にあて、2026 年度中には特定資産を使い切ることになります。
- ・財政に関しては、東京レガシーハーフマラソン 2025 チャリティに初めて参加しました。また、大口の寄付があり、2025 年度の経常増減額はプラスとなりましたが、国内外の政治経済状況や支援企業の状況など、今後の経常収益に影響が出てくると考えられます。事業費に関しては患者支援金が大きく増えました。2026 年度には収入要件の緩和を実行し基金に対する需要が高まる見込みです。

（３）情報発信

- ・機関紙の定期発行（計 12 回）
全国協議会ニュース 第 392～403 号 毎月 3,000 部発行×12 回（毎月 1 日発行）

行政、議員、関係機関、医療関係者、寄付者、各地団体などへ発送しました。

号数	発行月	主な記事内容
No.392	2025 年 4 月	東京マラソン 2025 開催 第 47 回日本造血・免疫細胞療法学会総会への参加
No.393	2025 年 5 月	福島県 JA 団体が次々と「ドナー休暇」を導入 AYAweek2025 ブース出展
No.394	2025 年 6 月	設立 35 周年記念 2025 全国骨髄バンクボランティアの集い開催 「白血病と言われたら」第 7 版完成
No.395	2025 年 7 月	全国協議会 2025 年度通常総会開催 骨髄バンクドナー登録者数が累計 100 万人に到達
No.396	2025 年 8 月	献血の輪、大阪・関西万博から世界・次世代へ 仕事と治療の両立支援～ブリッジの活動紹介～
No.397	2025 年 9 月	全国協議会 2025 年度事業計画概要 都道府県骨髄バンク担当者会議開催
No.398	2025 年 10 月	若いドナーを増やすために！首都圏での若年層対策実施 「白血病と言われたら」第 7 版毎日新聞で紹介

No.399	2025 年 11 月	厚労省移植医療対策推進室を訪問 東京レガシーハーフマラソン 2025 チャリティ開催
No.400	2025 年 12 月	骨髄バンクを介した移植が 3 万例に到達 骨髄バンクを支援するやまがたの会創立 30 周年
No.401	2026 年 1 月	新年の挨拶（会長、理事長、関係機関代表者） 「スワブ&オンラインドナー登録」トライアル 3 開始
No.402	2026 年 2 月	骨髄・さい帯血バンク・献血推進議員連盟 厚生労働大臣に決議文を提出
No.403	2026 年 3 月	スワブトライアル 3 開始 キット申込者まだまだ足りず

・ SNS での情報発信

2023 年度から本格的に始まったInstagramによる情報発信。2025 年度は東京マラソンなどのイベント情報の発信、報告など、情報を発信しました。その結果、現在は約 870 人の方にフォローしていただいています。

また X（旧ツイッター）で「GFEST. (ジーフェス)」の情報発信をおこないました。

・ 学生の学習、研修対応

2025 年 11 月 21 日 中野区立中野中学校 社会貢献の学習 10 人

中学 2 年生の皆さんに骨髄バンクボランティアの活動を中心に、社会貢献活動について話しました。移植を受けた患者の話には真剣に耳を傾けていました。

・ 寄付贈呈 計 3 回

開催期間		内 容	主催者・事業名等
2025年	12月7日	寄付贈呈（梅田正造理事長）	千葉ゆうきのライオンズクラブチャリティーコンサート
2026年	2月28日	寄付贈呈（山村詔一郎副理事長）	ゴールドジム関西スクール発表会2026
	3月28日	寄付贈呈（村上忠雄副理事長）	ゴールドジム関東スクール発表会2026

（４）体験談等活用ガイドライン

理事会内でワーキンググループを組み、患者・ドナーのペアが特定されず、かつ、ドナー登録拡大のため体験談を有効に活用いただくための「体験談等活用ガイドライン」を作成発効しました。

今後ブロックセミナーなどで加盟団体への丁寧な説明をおこないます。

以 上